

平成25年度 ともに生きる豊かな地域づくり研修会

認知症を他人事だと思っている人は、認知症になった人のことをどのように理解したらよいのか、という発想が浮かびません。認知症になった人にとって、そういう無理解な人たちの中で暮らすのと、ある程度の基礎知識をもった人たちの中で暮らすのでは、受けるストレスは雲泥の差があります。

5/16

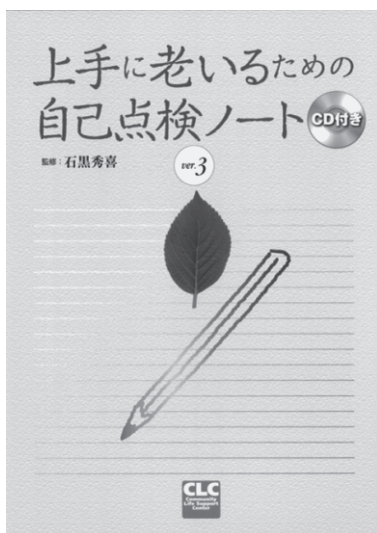
■テーマ 「元気なうちに老い仕度」 & 「認知症の理解・対応」

■講師

財団法人 長寿社会開発センター
審議役 石黒秀喜氏



52名の参加者は熱心に聞き入りました



長い老後をどうしますか？

石黒先生監修の「上手に老いるための自己点検ノート」を使って、元気なうちに老い仕度（こころ・からだ）を考え、自分の望む老後や、介護を受けることができるようにするヒントを教えてくださいました。また、脳のしくみとともに、先生のお義父さん、認知症のお義母さんとのやりとりなど実体験をもとにしたお話もあり、具体的に日常生活をイメージしながら、認知症について学ぶことができました。

← *参加者全員に配られました。
ノートを開くと、こんなテーマもありました。
「私の人生を申告します」「もっと私のことを知って下さい」

～参加された方の感想～

- 私の子どもたちの世代や若い人たちに、もっと聞いてほしいと思った。（70代女性）
- もっと早く、この話を聞きたかった。あの時、こうだったのか、こうすればもう少し楽に介護できたのに！知っていると、知らないでは全然違う。
（認知症の義母を2年間介護した70代女性）
- 今、まさに認知症の家族の介護をしている……そんな方々に教えてあげたい。外出するのも大変だと思うから。（40代女性）